令和元年度

県内大学生が創る

奈良の未来事業ジャーナル

大学生ならではの
視点や専門知識を
生かした政策提案をもとに
「奈良の未来」を創ります！

CONTENTS

P２…… 「県内大学生が創る奈良の未来事業」の概要
P３…… 令和２年度に事業を実施します！
P４…… 令和２年度に実施する事業に政策提案を反映します！
P５～６… 令和元年度に事業を実施しました！
P７…… 継続して事業を実施しています！
P８…… これまでの受賞政策提案一覧

奈良県

令和２年３月発行

公開コンペでプレゼンする各政策提案の代表者６名

奈良の未来を考える 県内大学生が政策提案をプレゼン!!

県内大学生が創る奈良の未来事業とは？

奈良県では、平成 24 年度から「県内大学生が創る奈良の未来事業」を実施しています。この事業は、多様化・複雑化する県政の様々な課題を解決するため、県内の大学等に在籍する学生の皆さんから政策提案を募集し、応募いただいた政策提案のうち、公開コンペで選考された特に優秀な提案を事業化し、学生の皆さんにも参加いただいて事業を実施するものです。

6グループが事前審査を突破！

4月から6月にかけて、県内の大学等に在籍する学生から、県政の様々な課題を解決するための政策提案を募集したところ、15提案の応募がありました。いずれも、大学生ならではの視点や専門知識が生かされた政策提案でしたが、書類審査による事前審査の結果、公開コンペには４大学6グループの参加が決定しました。

個別相談会で提案内容をブラッシュアップ！

7月下旬、公開コンペに向けて提案内容をより良いものへとブラッシュアップするため、大学生グループと県の関係部局で個別相談会を実施しました。個別相談会では、提案のあった政策分野の現状や課題、県の取組等について意見交換を行いました。県担当者の説明を真剣に聞く様子からは、提案内容をより良いものにしようとする熱い思いが伝わってきました。

公開コンペの結果、最優秀賞に選ばれたのは…

8月27日(火)、奈良県議会棟本会議場で公開コンペを開催しました。約60名の傍聴者を前に8分という短い時間の中で、どのグループも堂々と落ち着いた様子でプレゼンテーションを行いました。今回は、6提案それぞれ着目した課題が異なっていたことから、バラエティ豊かで聞き応えのあるプレゼンテーションとなっていました。プレゼンテーション後の各審査委員からの質疑にも的確に応答し、公開コンペに向けて入念に準備してきたことがうかがえました。

すべてのグループの発表終了後、「説明力」、「効果性・発展性・独創性」、「実現可能性」の観点から、審査委員による厳正な審査を行った結果、最優秀賞には、規格外の柿を有効活用するため、柿ワインの酒粕を活用した商品開発の提案を行った近畿大学のグループが選ばれました。

審査副委員長の栗山道義（くりやま みちよし）さんからは、「どの提案も着眼点が素晴らしかった。最優秀賞を受賞した提案については、今後、県の力も借りて良いものを作っていただくことを楽しみにしている」との講評がありました。

審査委員と記念撮影
（令和元年度最優秀賞「“規格外果実”を“規格外”のお土産に」）

令和2年度に事業を実施します！

令和元年度に最優秀賞を受賞した政策提案について、県内大学生と県職員によるプロジェクトチームを設置し、令和２年度の事業化に向けた検討を行いました。

令和元年度 最優秀賞

“規格外果実”を“規格外“のお土産に

検討内容

県の特産品である柿の規格外果実（大きさ、色、形等が出荷する際の規格を満たしていないもの）に着目し、柿の産業的な活用に向けて、平成29年度から県と近畿大学が共同して、柿ワインの醸造に関する研究開発を行っています。今回、柿ワインを醸造する過程で除去される酒粕をさらに有効活用すべく、柿ワインの酒粕を用いた県独自の特産品を新たに開発・商品化する事業を行います。

PT先進事例調査・株式会社 山本本家（五條市）

具体的には、まずは柿ワインの酒粕の製造方法を確立するため、①柿ワインや加工品に適した酵母の選定、②酒粕の抽出方法の検討、③酒粕の成分分析といった研究を県と近畿大学が連携して行います。同時に、試作品を作成し、大学のオープンキャンパス等のイベントを利用して試食する場を設け、官能評価（味・香り・食感・外観等を評価）を行い、改良していきます。試作品の候補としては、和菓子、洋菓子、冷菓子を予定しており、酒粕への酸味や旨味の付与、なめらかさの向上を図っていきます。

事業化に向けては、大学生グループと県の関係課で事業化プロジェクトチームを9月に立ち上げて、県内の先進事例調査を積極的に行いました。10月上旬、昭和60年から柿ワインを醸造している五條市の（株）山本本家にお伺いし、山本専務取締役から柿ワインの醸造方法や生産状況等について貴重なお話を聞かせていただきました。10月中旬には県主催の「食と健康フォーラム」に参加し、古くから柿の加工や商品開発を行っている石井物産（株）の石井代表取締役社長の研究発表を聴講し、事業化の参考となる有意義なお話を聞かせていただきました。

今後、これらの先進事例調査で学んだことを生かしつつ、県と近畿大学が協働して事業を進めていきます。

PT先進事例調査・食と健康フォーラム（県農業研究開発センター）

PT先進事例調査・食と健康フォーラム（県農業研究開発センター）

大学生にインタビュー

近畿大学農学部
応用生命化学科４年
松尾（まつお） 啓史（よしふみ）

政策提案をしたきっかけは？

大学では規格外の柿の利用法を目指し、柿ワイン醸造の研究をしていますが、搾り粕（酒粕）が大量に出ます。日本酒の酒粕には様々な利用法があります。そこで柿ワインの酒粕を用いて奈良県の特産品となり得るものは作れないかと思い、政策提案を行いました。

事業化への検討を行った感想は？

県担当者との打ち合わせや資料作成をする中で、自分の考えを相手に伝えることが非常に難しいと感じました。また、先進事例調査では様々な話を聞くことができ、普通に大学生活を送るだけではできない貴重な経験ができたと感じています。

令和2年度事業への参加に向けた抱負をどうぞ！

柿の生産の過程で、どうしても出てきてしまう規格外果実ですが、この事業を通して規格外果実でもここまで使えるぞ！ということを示し、その上で奈良県の特産品として認知されるようなものが創れるように励んでいきたいと思います。

令和2年度に実施する事業に政策提案を反映します！

令和元年度に優秀賞を受賞した政策提案について、県内大学生と県の担当者でフォローアップ検討会を実施し、令和２年度に県が実施する事業に大学生の政策提案を反映しました。

令和元年度 優秀賞

和歌発祥の奈良で現代の「短歌を詠む」文化継承を大学生の手で

検討内容

政策提案の概要

万葉の時代から自己表現の手法であった「短歌を詠む」ことへの関心が薄れている現代社会において、あらゆる世代に短歌本来の魅力を再認識してもらい、地域文化の活性化につながるよう、短歌祭や歌会等を開催する。

10月、大学生と県担当者が集まり、令和2年度の県事業に今回の提案を反映すべく、フォローアップ検討会を実施し、意見交換を行いました。来年度は記紀・万葉プロジェクト（※）の集大成の年であり、記紀・万葉に関するイベントを様々な形で開催します。その中で、若い世代にも短歌に親しみをもっていただけるように今回の提案を参考にしたイベントを実施する予定です。

※記紀・万葉プロジェクトとは・・・
2012年『古事記』完成1300年から2020年『日本書紀』完成1300年という2つの節目の年をつなぐ9年間にわたる県事業の名称。

大学生にインタビュー

奈良大学文学部
文化財学科３年
小江（おえ）　陽南子（ひなこ）

政策提案をしたきっかけは？

大学で指導教官と先輩が開催する「現代短歌を考える会」で初めて短歌を作り、短歌の魅力を知りました。今回、他大学の学生や地域の歌人の方と一緒に、現代の言葉で作る短歌の楽しさをさらに広めたいと考え、政策提案をしました。

今回の経験を今後の活動にどのようにつなげていきたいですか？

若い世代の古典学習に対する固定観念を払拭して、現代の奈良で短歌を楽しむ表現方法を提案していきたいです。

フォローアップ検討会の様子（奈良県庁）

令和元年度 優秀賞

在来作物を用いた農山村の活性化

検討内容

政策提案の概要

増加傾向にある耕作放棄地に、消滅の危機に瀕している在来作物（アワ、キビ、モロコシ等の雑穀類）を大学生による援農ボランティアの手で栽培することで生産拡大を図るとともに耕作放棄地の解消を目指す。さらに、地域の福祉作業所とも連携して、収穫した雑穀類を用いた商品を開発する。

9月、大学生と県担当者が集まり、令和2年度の県事業に今回の提案を反映すべく、フォローアップ検討会を実施し、意見交換を行いました。来年度、遊休農地における雑穀栽培の実証を行うとともに、大学生による援農ボランティアが雑穀栽培の管理に参加する予定です。また、活動の中で、農村地域との交流も図っていきます。少子高齢化により、農村地域ではマンパワーが求められている中、若い力を農村地域づくりに生かしていきたいと考えています。

大学生にインタビュー

近畿大学農学部
環境管理学科４年
文（ぶん）　賀紀（よしのり）

政策提案をしたきっかけは？

私の所属する環境政策学研究室では、大和高原を中心に既存の資源を生かした地域振興を目指して在来作物の調査を進めてきました。私自身も、古くから栽培されてきた雑穀類で大和高原の村々を元気にしたいと考え、今回、政策提案をしました。

今回の経験を今後の活動にどのようにつなげていきたいですか？

県担当者の方からの助言で、当初は気付かなかったことに気付くことができました。様々な角度から検討する"ことを大切にして、今後の活動につなげていきたいと思います。

フォローアップ検討会の様子（奈良県庁）

令和元年度に事業を実施しました!

平成３０年度に最優秀賞を受賞した政策提案について、
県内大学生の皆さんとともに「奈良スタディサイクリング開催事業」を実施しました。

平成30年度 最優秀賞

奈良スタディサイクリング開催事業

政策提案名（奈良・スタディサイクリング ー自転車を用いた体験学習型地域振興ー）

実施内容

過疎化が進む奥大和（県南部・東部）地域について、次世代の若者が奥大和地域の豊かな自然や歴史、文化等を知ることで、活気のある地域づくりにつなげることを目的に、大学生と中高生がチームを組み、自転車で奥大和地域を巡る「奈良スタディサイクリング」を実施しました。

チームリーダー養成研修（奈良県立大学）

10月に実施するメインイベントに備えて、はじめに、チームリーダーとなる大学生16名を対象に、リーダーとして必要なコミュニケーション力の向上や奥大和地域に関する知識の習得、また、自転車走行研修等も交えたチームリーダー養成研修を6月に実施しました。9月には、宇陀市から吉野町、下市町を試走し、宿泊先の五條市では初めての民泊体験をしました。翌日は五條市を起点に下市町～大淀町～御所市～高取町～明日香村～橿原市までのコースを試走し、奥大和地域について学びました。チームリーダーは奈良県立大学の学生だけでなく、他大学の学生からも参加があり、リーダー全員でメインイベントに向けて十分な準備を重ねました。

メインイベント1日目はあいにくの雨で、自転車走行は中止となりましたが、2日目は晴天に恵まれ、一般参加の中高生7名と大学生16名が3班に分かれて、サイクリングしながら奥大和地域の歴史や文化が学べるスタディポイントを巡りました。五條市では柿の収穫体験や御山（みやま）地区住民の方々との交流会を実施し、中高生からは、「坂道はしんどかったけど、奥大和地域の自然にふれることができて充実感があった」や、「普段接する機会のない方々とお話しできたことが印象深かった」といった声があり、参加者全員が貴重な体験をすることができました。

今後も、様々な手法を駆使し、奥大和地域の魅力を発信していきます。

メインイベントでの柿収穫体験（五條市）

メインイベントでの大学生リーダーと参加者の様子

大学生にインタビュー

奈良県立大学地域創造学部
地域創造学科３年
天野（あまの）　光生（ひかり）

事業実施に参加した感想は？

どのイベントもけが人が出ず、笑顔のあふれる素敵なイベントになりました。既存の大型イベントでは伝えきれない、体験できないものを提供することができたと思います。

事業の実施にあたって、1番印象に残っていることは何ですか？

県との連携不足もあり、イベント参加者の募集期間は3週間、クラウドファンディングはわずか6日間の募集期間であったにもかかわらず、100%を超えるクラウドファンディングの支援と十分な参加者の応募をいただくことができました。

今回の経験を今後の活動にどのようにつなげていきたいですか？

本事業のために集まった仲間（学生・地域・県）には、あらゆる場面で支えていただきました。今後も、培った絆を大切にしていきたいです。また、今回の事業を通して得たノウハウや学びから、他地域でも活動を進めていこうと考えています。

令和元年度に事業を実施しました!

平成３０年度に優秀賞を受賞した政策提案について、
県内大学生の皆さんとともに、県の事業として実施しました。

平成30年度 優秀賞

交換留学ならto奈良事業

政策提案名（交換留学ならto奈良 ～次世代に繋がる、北部・南部の小学生の交流と魅力発信～）

実施内容

小学生の学ぶ姿勢や地域への愛着度を向上させることを目的に、県内の北部地域と南部地域の小学生同士の交流を通じて、双方の地域の魅力を発掘し合う交流学習を行いました。

モデル的な取組として、北部地域からは奈良教育大学附属小学校、南部地域からは東吉野小学校に協力いただき、10月に奈良教育大学附属小学校の子どもたちが川上村で社会見学を行い、林業等について学びました。11月には東吉野小学校の子どもたちが平城宮跡歴史公園で社会見学を行いました。スカイプを活用した交流学習では、社会見学を通して学んだお互いの地域の魅力に関する発表を行いました。

スカイプを活用した交流学習の様子
（奈良教育大学附属小学校）

大学生にインタビュー

奈良教育大学教育学部
教科教育専攻２年
尾﨑（おざき） 優真（ゆうま）

事業実施に参加した感想は？

学生という立場でありながら、子どもたちの学びをより充実したものにするという責任のある事業をさせていただき、県や協力校の先生方に自分たちのやりたいことを伝えることの難しさに圧倒されながらも、机上では決してできない学びを得ることができたと感じました。

事業の実施にあたって、1番印象に残っていることは何ですか？

子どもたちからの感想に「自分の住んでいる所にも知らないことがたくさんあって興味が湧いた」といった感想があり、事業の目的である「奈良の魅力の再発見」を感じることができた点です。

今回の経験を今後の活動にどのようにつなげていきたいですか？

今年度で県の補助を受けての活動は終了しますが、複数学級での実施や、社会見学を活用した学習モデルの考案等、持続可能かつ発展できる方法を模索しながら続けていきたいです。

平成30年度 優秀賞

これが僕らのまち図鑑事業

政策提案名（これが僕らのまち図鑑）

実施内容

小学校の総合的な学習の時間を利用して、小学生と大学生がまち歩きや地元住民への聞き取り調査等を行い、まちの歴史や食文化、神社仏閣、地域産業を一緒に学びました。子どもたちは学びの中で、今まで気にかけていなかったことについて知ることができたと同時に、興味津々で調査を行っている様子から、自分たちの住むまちに対する愛着が芽生えている様子がうかがえました。また、学びの成果として子どもたちとともに「カルタ」を作成し、報告発表会を行い、シビックプライド（住んでいる地域への愛着や誇り）の醸成につなげました。

カルタを作成している様子（広陵町立広陵北小学校）

大学生にインタビュー

畿央大学健康科学部
人間環境デザイン学科４年
阿草（あぐさ） 憲蔵（けんぞう）

事業実施に参加した感想は？

貴重な経験ができ、とてもありがたく思っています。活動が始まるまでに準備することが多く、大変でしたが充実した毎日を送ることができました。活動が始まってからは、忙しくつらい部分もあり、時間が過ぎるのが早く感じましたが、チーム一丸となって乗り越えました。

事業の実施にあたって、1番印象に残っていることは何ですか？

活動を通して子どもたちに絵を描いてもらったとき、絵が得意な子、不得意な子がいる中で、みんなが一生懸命良いものを作ろうと頑張っている姿が印象に残っています。

今回の経験を今後の活動にどのようにつなげていきたいですか？

目上の方に対する言葉遣い等、至らない点があったと思います。社会人になるとこのような経験が増えると思うので、先に経験できたことは次につながっていくと思います。

継続して事業を実施しています！

平成２８年度及び平成２９年度に受賞した政策提案のうち、
平成３０年度に引き続き、２つの事業を令和元年度も実施しました。

平成29年度 最優秀賞

中高大連携森林学習プロジェクト事業

政策提案名（学んで守ろう僕らの森 ー中高大連携森林学習プロジェクトー）

実施内容

森林の多面的機能の重要性や、林業の役割に関する理解を促進するため、県内の中高生を対象に、森林環境教育や林業体験等を行いました。中高生に県内の森林の現状と課題を知ってもらうため、大学生による出前授業をはじめとして、森林学習に興味のある中高生とともにロープワークや手のこぎりによる伐採等の林業体験を実施しました。参加者からは「森林の大切さがわかる体験が出来てとても良かった」や、「実際に山に入って体験してみないと感じられないことがたくさんあった」といった声があり、森林に対する理解を深めることができました。今後は、本取組を普及していくため、実施マニュアルを作成していきます。（平成30年度からの継続事業）

林業体験の様子（近畿大学奈良キャンパス）

平成28年度 優秀賞

県内大学生による学習等支援事業

政策提案名（女子大塾～女子大生による県南部学習支援～）

実施内容

県南部・東部地域の小・中学校に通う子どもの学習意欲や規範意識等の向上を図るため、今年度は3市村の小・中学校へ大学生ボランティアを派遣し、子どもたちに学習支援等を行いました。実施にあたって、県内6大学から50名の大学生ボランティアの応募があり、子どもたちへの授業支援や学習サポート等を実施しました。実施後のアンケートでは「大学生とまた学習したい」と回答した子どもは96％となっており、大学生からは「この活動を通じて個々に応じた支援の仕方等について学べた」という感想が寄せられています。今後は、この3年間で培ってきたノウハウ等をまとめた報告書を作成し、県全域に取組を広めていきます。（平成29年度からの継続事業）

平日授業の学習支援の様子（宇陀市立榛原小学校）

県の担当課にインタビュー

平成29年度から継続実施している「県内大学生による学習等支援事業」について、事業担当課の県教育委員会事務局（人権・地域教育課）にインタビューを行いました！！

事前研修会で大学生に事業説明している大学生塾コーディネーター（奈良女子大学）

Q：本事業は3年間継続して実施していますが、事業担当課としてどういったところに手応えを感じていますか？

A：実施市町村や参加大学生が増えていくことに手応えを感じています。参加大学生の中には「県内大学生による学習等支援センター」に入って成果報告会等のサポートをしたり、活動に毎年参加して各地で活動リーダーになる大学生もいます。小中学生からは「大学生がほめてくれた」、「来年も来てほしい」という声が届いています。

Q：本事業は県内6大学から大学生ボランティアが参加されていますが、事業を円滑に進めるにあたって工夫したことはありますか？

A：当課の大学生塾コーディネーターが本事業に専念することで、複数の大学の学生に対して円滑に連絡調整することができました。可能な限り、活動場所に出向いたり、成果報告会を開催したりして、大学生との情報共有や活動の充実を図りました。

Q：今後の事業の展望を教えて下さい。

A：これまで、2年間事業を実施した市町村は事業を終了します。しかし、当該市町村の中には、事業を築いた関係やノウハウを生かし、独自に大学と連携して事業を進めている地域がいくつもあります。同様の活動が他地域へ広がり、市町村と大学による持続可能な取組が県内各地で展開されることを期待しています。

受賞歴

これまでの受賞政策提案一覧

平成24年度から始まった「県内大学生が創る奈良の未来事業」において、
これまで最優秀賞、優秀賞を受賞した政策提案は以下のとおりです。

提案年度（応募提案数）	賞	政策提案名	提案者（所属・学年は受賞当時のものです。）
令和元年度（15提案）	最優秀賞	"規格外果実"を"規格外"のお土産に	近畿大学農学部応用生命化学科4年 松尾　啓史　他3名
	優秀賞	和歌発祥の奈良で現代の「短歌を詠む」文化継承を大学生の手で	奈良大学文学部文化財学科3年 小江　陽南子　他4名
	優秀賞	在来作物を用いた農山村の活性化	近畿大学農学部環境管理学科4年 文　賀紀　他9名
平成30年度（12提案）	最優秀賞	奈良・スタディサイクリング−自転車を用いた体験学習型地域振興−	奈良県立大学地域創造学部地域創造学科2年 天野　光生　他2名
	優秀賞	交換留学　ならto奈良〜次世代に繋がる、北部・南部の小学生の交流と魅力発信〜	奈良教育大学教育学部教科教育専攻 数学教育専修1年　尾崎　優真　他6名
	優秀賞	これが僕らのまち図鑑	畿央大学健康科学部人間環境デザイン学科3年 阿草　憲蔵　他3名
平成29年度（16提案）	最優秀賞	学んで守ろう僕らの森ー中高大連携森林学習プロジェクト	近畿大学農学部環境管理学科3年 奥芝　理那　他2名
	優秀賞	小学生を対象としたパラリンピック教育プロジェクト	奈良教育大学教育学部教科教育専攻 保健体育専修3年　小田　陽介　他2名
	優秀賞	留学生による奈良の旧正月フェスティバル	奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程 社会生活環境学専攻1年　林　君嶸　他9名
平成28年度（23提案）	最優秀賞	農地の窓口	近畿大学農学部農業生産科学科3年 中井　隆教　他2名
	優秀賞	Sight Feeling NARA 感じてみっけ!あなたの奈良 魅力再発見プロジェクト	奈良女子大学大学院人間文化研究科住環境学専攻1年 金村　麗華　他5名
	優秀賞	女子大塾〜女子大生による県南部学習支援〜	奈良女子大学生活環境学部住環境学科4年 小澤　初葵　他5名
平成27年度（18提案）	最優秀賞	緊急課題!奈良の将来の医療をつくる多職種医療学生の集い	奈良県立医科大学医学部医学科6年 峯　昌啓　他8名
	最優秀賞	女子大生ハンティングサークル(狩りガール)	奈良女子大学大学院人間文化研究科 博士前期課程住環境学専攻1年　竹村　優希　他6名
	優秀賞	不登校の子どもたちに大学生ができること〜大学間の垣根を越えて〜	帝塚山大学大学院心理科学研究科 心理科学専攻2年　酒井　希恵　他9名
	優秀賞	かえろうら!十津川〜空き家のDIY 改修&活用プロジェクト〜	奈良女子大学大学院人間文化研究科 博士前期課程住環境学専攻1年　森　里沙　他9名
平成26年度（20提案）	最優秀賞	楽しく健康!健楽(けんぎょう)農業で遊休地を有効活用	奈良女子大学大学院人間文化研究科 博士前期課程住環境学専攻1年　土佐野　美裕　他5名
	優秀賞	無病促菜〜野菜パワーで元気100%な奈良県へ!〜	帝塚山大学現代生活学部食物栄養学科3年 高瀬　美桜　他9名
	優秀賞	奈良栄養クリニック設立計画	奈良女子大学生活環境学部食物栄養学科4年 祝迫　景子　他4名
	優秀賞	萃点を灯すー春日奥山から未来への文化継承の地	奈良女子大学大学院人間文化研究科 住環境学専攻2年　大石　茉由佳　他2名
平成25年度（13提案）	最優秀賞	科学の旅ーシーズンフリーのワンストップサイエンスツーリズムー	奈良教育大学教育学部学校教員養成課程 理数生活科学コース4年　荻　奈津希　他5名
	優秀賞	自然の恵みリスタート事業	奈良女子大学大学院人間文化研究科 博士前期課程環境学専攻1年　濱川　真衣　他4名
	優秀賞	大学生がつくる幼児のためのスポーツイベント	奈良教育大学教育学部保健体育専修3年 赤木　誠五　他2名
平成24年度（27提案）	最優秀賞	泊まってみ奈良?ー町屋ステイで奈良を知るー	奈良県立大学地域創造学部1年 横田　紘大　他8名
	優秀賞	奈良県産材製の児童用学習机・椅子・教卓の普及	奈良女子大学生活環境学部住環境学科4年 笹川　祐里　他3名
	優秀賞	Meet 20s' 絆 プロジェクトー 20歳の若者の出会いで絆をつくる	帝塚山大学経営情報学部経営情報学科3年 森崎　直人　他7名

＜　表紙で使用した写真について　＞ 上段左：林業体験のサポートをする大学生(中高大連携森林学習プロジェクト事業)　上段中：平城宮跡資料館で展示物の説明をする大学生(交換留学ならto奈良事業)上段右：奥大和の景色(奈良スタディサイクリング開催事業)　下段上：南部地域の小学生に学習支援する大学生(県内大学生による学習等支援事業)　下段下：奥大和を試走する大学生(奈良スタディサイクリング開催事業)　下段右：奥大和の登り坂を激走する大学生(奈良スタディサイクリング開催事業)

奈良県総務部知事公室政策推進課　〒630-8501 奈良市登大路町30　TEL 0742-27-8472